

アスパラガス特報

令和7年5月16日
J A中野市営農センター
J A中野市アスパラガス部会

適期な立茎と、立茎前後の管理徹底により茎枯病の予防に努め、翌春の収量確保を図りましょう。

1. 立茎（収穫打切）開始の目安

- ◎1日の収量が最高収穫時（ピーク時）の30%程度まで低下したとき。
- ◎株令別による収穫日数（表）に達したとき。いずれの場合も最高収穫日数55日以内。
- ◎M級や細茎の比率が高くなってきた場合や穂先の開きが目立ってきた場合。

※夏秋どりをを行う場合は、株の消耗を抑えるため10～30日早めに収穫を打切る。
※昨年茎枯病等により枯れ込みが早かったほ場では早めに打ち切ると共に、徹底管理で茎枯れ病対策をしましょう。
※立枯性症状の発生が見られるほ場では早めに打ち切るとともに、圃場の排水性を見直しましょう。
※露地栽培では、茎枯れ病の感染リスクを下げるため晴天が続く時期に立茎しましょう。

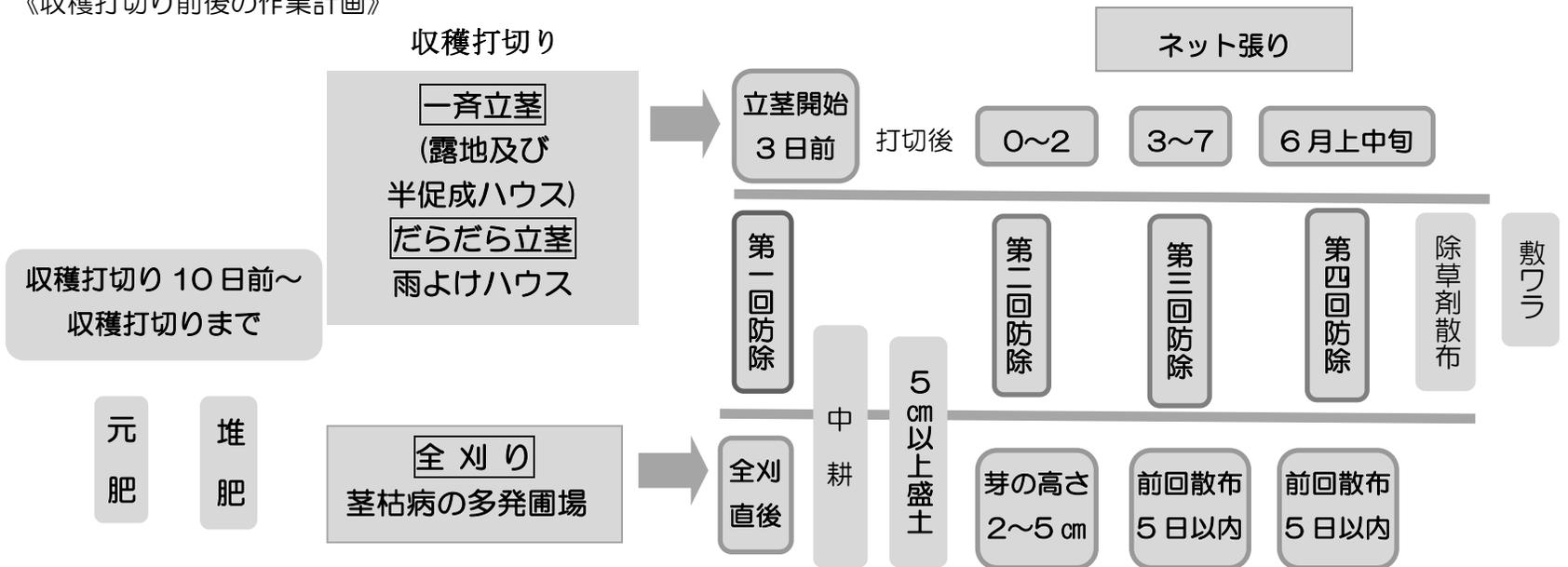
株令別	収穫日数	備考
3年株(収穫初年度)	10～15日	前年の草勢により日数を加減
4年株(収穫2年度)	20～25日	
5年株以降(成園)	30～55日	基準で打切る。
*定植後2年目の圃場は、春は原則として収穫しない。 *養成株の場合(2年目)は、10～15日を目安とする。		

2. 立茎方法

- ◎全ての作型において、立茎は一斉に実施する「一斉立茎」を基本とする。
- ◎昨年、茎枯病による被害が大きかった圃場は、全刈りしてから立茎する「全刈り立茎」を実施。
- ◎雨よけ栽培に限り、時間をかけ理想的な茎だけを立茎させる「だらだら立茎」も可能。
「だらだら立茎」は茎枯れ病感染リスクを抑えられる「雨よけ栽培」以外では実施しない。

3. 収穫打切り前後の管理とその手順 ～来年の収量を左右する最も重要な作業～

《収穫打切り前後の作業計画》



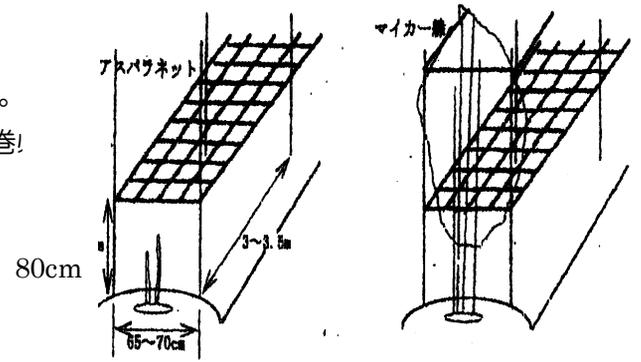
- 収穫打切り 10 日前～収穫打切りまで
 - ①元肥の施用：「野菜一番」を 10a 当りハウス、露地ともに 80kg（4 袋）を施用して下さい。
 - ②石灰類の施用：土壤分析結果に基づいて施肥量を決めて下さい。アスパラガスの生育に適当な酸度は 5.8～6.1 です。基準では「炭苦土(粒)タイニー」を 10a 当り 40～60kg(2～3 袋)を施用して下さい。
 - ③有機質肥料の施用：地力向上のため「コーンコブ入り牛堆肥」等を 10a 当り 4t、または「有機ハツラツ plus」を 10a 当り 200kg（10 袋）を投入し土壤混和して下さい。
- 収穫打切り：昨年茎枯病が多発したほ場では、若茎の大小を問わず晴天日にできる限り地際ぎりぎりに全刈りする。なお、露地でも茎枯病の発生が少なかった場合は、ハウスに準じ全刈りせず、そのまま一斉に立茎させる。ハウスの場合は、弱小茎・奇形茎等の除去のみと同時に雑草や異物を取り除き園地をきれいにする。また、打切後すぐビニールをはがさず展葉するまで雨よけをする。（打切後 1 か月被覆）
- 中耕：特に有機質の少ないほ場等ではうね間を中耕し、有機質と土壤混和する。
「亜リン酸粒状 1 号」を土寄せ（盛り土）時に 10a 当たり 10～20kg 施用すると、根量の増加、生育促進に土壤病害の抑制につながる
- 盛り土：目的は ①倒伏防止 ②雑草防止 ③うね間へ有機質の投入 ④根株の高温防止 ⑤茎枯病の予防強化等です。中耕が終わったら株元へ 5cm 以上の盛土をします。特に茎枯病の発生を抑える上で重要な管理作業となります。

4. 倒伏防止：アスパラガスは揺れに弱い作物です。台風等により莖葉が揺られ傷つけられると根から有害物質（アレロパシー）が蓄積し、収量低下の大きな要因となります。

◎薬剤散布・莖葉整理等の管理作業を容易にするためにも、右図のように支柱を立てて倒伏を防ぎましょう。

マイカー線・ポリベルの代わりにアスパラネット（4目）が有効です。
[アスパラネット：1目15cm角、4目(60cm)、長さ100m、10a当り6巻]

◎畦巾が広い場合や密植栽培等では、4目に代えて5目を使用する。
1年目に使用する場合、5目を半分に切って使用してもよい。



【ハウス栽培の場合】

散布時期		薬剤名	10a 当り 散布量	薬剤調合（水 100 ㍓当り）
第1回	立茎開始 3 日前	アミスター20フロアブル 2000 倍液 を散布する	200 ㍓	水 : 100 ㍓ アミスター20フロアブル : 50ml
第2回	第1回散布後 5日以内	ベンレート水和剤 2,000 倍液散布する	200 ㍓	水 : 100 ㍓ 展着剤 (ハイテンパワー) : 20 ml ベンレート水和剤 : 50g
第3回	第2回散布後 5日以内	パレード 20 フロアブル 2,000 倍液を散布する	200 ㍓	水 : 100 ㍓ 展着剤 (ハイテンパワー) : 20 ml パレード 20 フロアブル : 50ml
第4回	5月下旬	劇 モスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍液 ロブラール水和剤 2,000 倍液を散布する	200 ㍓	水 : 100 ㍓ 展着剤 (アビオンE) : 100 ml モスピラン顆粒水溶剤 : 25g ロブラール水和剤 : 50g
第5回	6月上中旬	コルト顆粒水和剤 4,000 倍液 ダコニール 1000 1,000 倍液を散布する	300 ㍓	水 : 100 ㍓ 展着剤 (ハイテンパワー) : 20 ml コルト顆粒水和剤 : 25g ダコニール 1000 : 100ml
第6回	6月下旬	カスケード乳剤 4,000 倍液を散布する	300 ㍓	水 : 100 ㍓ 展着剤 (ハイテンパワー) : 20 ml カスケード乳剤 : 25ml

【露地栽培の場合】

散布時期		薬剤名	10a 当り 散布量	薬剤調合（水 100 ㍓当り）
第1回	立茎開始 3 日前	アミスター20フロアブル 2000 倍液 を散布する	200 ㍓	水 : 100 ㍓ アミスター20フロアブル : 50ml
第2回	第1回散布後 5日以内	ベンレート水和剤 2,000 倍液散布する	200 ㍓	水 : 100 ㍓ 展着剤 (ハイテンパワー) : 20 ml ベンレート水和剤 : 50g
第3回	第2回散布後 5日以内	パレード 20 フロアブル 2,000 倍液を散布する	200 ㍓	水 : 100 ㍓ 展着剤 (ハイテンパワー) : 20 ml パレード 20 フロアブル : 50ml
第4回 春どりのみ	第3回散布後 5日以内	コルト顆粒水和剤 4,000 倍液 ジマンダイセン水和剤 500 倍液を散布する ※ジマンダイセンは収穫終了後の露地栽培のみ	200 ㍓	水 : 100 ㍓ 展着剤 (アビオンE) : 100 ml コルト顆粒水和剤 : 25g ジマンダイセン水和剤 : 200g
第4回 夏秋どりする場合	第3回散布後 5日以内	コルト顆粒水和剤 4,000 倍液 ダコニール 1000 1,000 倍液を散布する	200 ㍓	水 : 100 ㍓ 展着剤 (アビオンE) : 100 ml コルト顆粒水和剤 : 25g ダコニール 1000 : 100ml
第5回 春どりのみ 夏秋どりする場合	6月中下旬	カスケード乳剤 4,000 倍液 シグナム WDG 3,000 倍液を散布する	300 ㍓	水 : 100 ㍓ 展着剤 (ハイテンパワー) : 20 ml カスケード乳剤 : 25g シグナム WDG : 66g